

公園の風景

～ 短足、大口、フス？ ～

9月に入って間もないころから干潟に珍しいお客様が姿をみせている。和名カラフトアオアシシギという名の旅鳥。夏季、サハリン（旧カラフト）で繁殖すること、脛が緑色がかっていることからの和名だという。ある愛鳥家は「アオアシシギに比べると短足、大口（嘴）、フスなトリ」と酷評するが世界に500羽くらいしか生存しない絶滅危惧ⅠA類（環境省レッドリスト）の貴重なトリである。

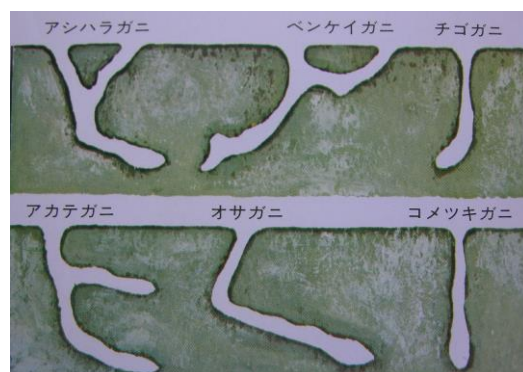
かれらは公園で魚や甲殻類・ゴカイなどを捕食し休養した後、越冬のため東南アジアに旅立っていく。彼らが無事に目的地にたどり着くことを祈りながら、つかの間の滞在をお互いに楽しみたい。



～ 子ガニたちは大忙し～

赤い爪と背中のにっこりマークでお馴染みのアカテガニ。普段は陸に棲んでいるカニですが8・9月の新月や満月の夜、水辺で産卵し生まれた子ガニも今では甲羅の大きさが2センチくらいまで成長しました。冬眠に入るまでのこの時期、十分な栄養を取る事と冬眠のための穴堀作業とに右往左往と大忙しの様子です。ちなみに、カニの穴の形は種類によって違うようですがアカテガニの巣穴は一般的に2階建の様である。

生まれて初めての越冬子ガニたちはこの穴の中でどのように暮らすのでしょうか。両親と一緒に？兄弟と一緒に？仲間と一緒に？…でも大きくなると穴の中が狭くなるのでやっぱり一人暮らしかな？幼くして独立する子ガニたちががんばれ！



※学研図鑑「水の生物」より転載